

昭和村の人物伝(7)

林 辰衛
― 農業者の心の支え ―

『利根沼田の人物伝』(高山正著・上毛新聞社)に掲載された、村にゆかりのある人物の中から今回は林辰衛を紹介する。



林 辰衛

林辰衛は大正五年(1916)貝野瀬に生まれ、農業のために歩き続けた人物です。

地元小学校から県立沼田中学校(現在の沼田高校)へ進学しますが、農村不況で中退を余儀なくされ、十四歳から農業に従事します。農業に励みながらも、青年団に入り、利根郡青年弁論大会で連続優勝するなどその才能の片鱗をのぞかせます。

その後、糸之瀬村の農会農業技術員として農業の新技术の普及・導入に尽力し、農民の民主化を目指した農民組合の結成にも奔走しました。昭和二十一年、農民組合の後押しもあり、村議会議員選挙で当選。第一農業組

合長を兼任し、村の大黒柱として、赤城高原に野菜栽培の道を開きました。村議員を三期務めた後、三十七歳の若さで糸之瀬村長に就任。農業政策を中心に若さをぶつけて村政に挑みまし

た。「オートバイ村長」と呼ばれ、文字どおりオートバイで、村中を駆け回り、多くの課題の解決と昭和村の誕生に尽力します。より大きな農政を展開してみたいとの思いから、昭和三十四年に県議会議員に立候補し、当選すると「真実一路、農民代表として努力する」と支援者に誓いました。連続六期当選し県議会の重鎮として、活動を続け、満期退任となりました。

退任後は、全国農業共済協会副協会長などの要職を務め、中でも群馬県立農林大学の発足に尽力しました。校門の校名は林辰衛が揮毫したものです。

平成十五年十月、八十七歳でその生涯を閉じましたが「裸で生まれて来て不足なし」を座右の銘とし、農業政策を中心とした議員活動は、利根沼田の農業者にとって、大きな心の支えでありました。

参考 利根沼田の人物伝
昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



昭和村権利擁護センターの開設

権利擁護センターとは

「子に障がいがあり親亡き後が心配…」 「自分の将来が心配」 「独居の叔父が寝たきりに…通帳や印鑑がみつからない」 など、成年後見制度に関する相談を受け付け、弁護士や司法書士、社会福祉士など関係機関と連携しながら支援していく窓口です。



活動内容

<相談支援>

成年後見制度に関する相談を受け付け、問題解決のお手伝いをします。また、手続きに必要な書類の作成をお手伝いします。(申立ては行いません。)

<普及・啓発>

成年後見制度の利用促進を目的とした講習会を開催。また、チラシやホームページにて広報活動を行います。

<関係機関との連携>

行政機関、専門職(弁護士・司法書士・社会福祉士)、関係機関との連絡及び情報交換を行い、問題解決の連携体制を構築します。

<後見人ができること>

- ◆ 預貯金の管理、金融機関の手続き、公共料金など日常生活における支払い、不動産の売却契約・管理など
 - ◆ 入退院に関する手続き、福祉サービスの利用や施設への入退所に関する手続きなど
 - ◆ 不適切な契約の取り消し(法定後見制度に限る)
 - ◆ 遺産相続の代理など
- ※後見人ができないことの例
- ・日用品の購入 ・介護や病院の付き添い
 - ・身元保証人になること ・医療行為への同意
 - ・婚姻・離婚・遺言書等の同意など



問合せ 地域包括支援センター ☎ 20-1126

